

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態	
社会の理解Ⅱ	介護福祉学科／2年	2026／前期	講義	
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員	
2単位（30時間）	必須		坂井 利成	
授 業 の 概 要				
社会の理解Ⅱでは、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題を理解する。 高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題を理解する。 人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	介護老人保健施設等で9年の実務経験			
時間外に必要な学修				
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	自己紹介 「社会の理解Ⅱ」の概要		
2	障害者保健福祉の動向	障害者福祉の現状 障害者福祉の動向		
3	障害者の定義と障害者保健福祉に関する制度	障害者の法的な定義 障害者福祉の歴史と制度、障害児に対する制度		
4	障害者総合支援法①	障害者総合支援法の目的、国・地方公共団体の役割 自立支援給付、地域生活支援事業、財源、利用者負担		
5	障害者総合支援法②	福祉サービスの種類と内容と手続き、区分認定 協議会・基幹相談支援センターの役割、障害児を支える制度		
6	個人の権利を守る制度	虐待防止に関する制度、サービス利用に関する制度 消費者保護に関する制度、その他の個人の権利を守る制度		
7	保健医療に関する制度	保健医療に関する制度 生活習慣病、結核・感染症、HIVの予防・対策に関する制度		
8	貧困と生活困窮に関する制度	生活保護法 生活困窮者自立支援法		
9	地域生活を支援する制度	就労支援・雇用促進に関する制度 住生活を支援する制度、自殺を予防する制度		
10	高齢者保健福祉の動向	高齢者保健福祉の歴史、人口の高齢化 高齢者の健康保持と社会参加、高齢者保健福祉の課題と展望		
11	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢社会対策基本法、老人福祉法 高齢者の医療の確保に関する法律		
12	介護保険法①	介護保険制度増設の背景と目的 介護保険制度のしくみの基本的理解		
13	介護保険法②	介護保険制度のしくみの基本的理解 介護保険制度における組織・団体の役割		
14	介護保険法③	介護保険制度における介護支援専門員の役割 介護保険制度の動向		
15	まとめ 期末テスト	「社会の理解Ⅱ」のまとめ 期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版」中央法規		期末試験	70.0%	
		課題・レポート	30.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係とコミュニケーションⅡ	介護福祉学科／2年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		
授 業 の 概 要			
介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習をする。チームマネジメントでは、対人援助としての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理方法の基礎を学ぶ。			
授業終了時の到達目標			
①チームマネジメントの基礎を学び、チームで働いたの能力を身につけることができる。 ②介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理について知ることができる。 ③人材の育成に必要となるOJT、Off-JT、スーパービジョンなどの基本を身につけることができる。 ④チーム運営に必要となるリーダーシップやフォロワーシップなどの基本を理解することができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。		
時間外に必要な学修			
テキストをよく読んでおくこと。 予習と復習を行うこと。			
回	テ ー マ	内 容	
1	オリエンテーション	「人間関係とコミュニケーションⅠ」の振り返り 「人間関係とコミュニケーションⅡ」の概要	
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義	サービスの特性と介護サービス 介護サービスと他のサービスの相違点	
3	介護現場で求められるチームマネジメント	マネジメントとチームマネジメント 介護福祉士の役割とチームマネジメントが求められる理由	
4	介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み	ケアの展開、人材育成・自己研鑽、組織の 目標設定 ケアを展開するためのチームマネジメント	
5	ケアを展開するためのチームマネジメント	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み チームとメンバーの相互関係と取り組み	
6	チームでケアを展開するためのマネジメント	情報を共有する、情報を統合して方針を明確にする 評価・修正の機会を作る	
7	チームの力を最大化するためのマネジメント	リーダーシップとフォロワーシップの機能 リーダーシップとフォロワーシップをバランスよく発揮する	
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	介護福祉職のキャリアと求められる実践力 初任期～ベテラン期、それぞれに求められる実践力	
9	介護福祉職としてのキャリアデザイン	キャリアパスとキャリアデザイン OJT、Off-JT	
10	介護福祉職のキャリア支援・開発	自己研鑽を支える体制 スーパービジョン	
11	自己研鑽に必要な姿勢	サービスの質の向上させる、研修を活用する 自己研鑽の効果を高める	
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント	介護サービスを支える組織の構造 組織の理解、組織の階層構造、職種・職位、組織図、事業計画	
13	介護サービスを支える組織の機能と役割	経営基盤の安定と法令遵守、理念や運営方針と事業計画の作成 教育、研修体制づくりと人間関係づくり	
14	介護サービスを支える組織の管理	介護業務等の管理、労務管理、人材育成、設備・備品の管理、地域連携、地域貢献、非常事態の管理	
15	まとめ 期末テスト	「人間関係とコミュニケーションⅡ」のまとめ 期末テスト	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	「最新 介護福祉士養成講座1 人間の理 解 第2版」中央法規 配布資料	課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

作成者:南 敦子

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コンピュータリテラシーⅠ		介護福祉学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）		必須		南 敦子
授 業 の 概 要				
コンピュータリテラシーについての基本を理解する				
授業終了時の到達目標				
Office2019を使って各種文書を作成できる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
テキストを熟読しておくこと				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	パソコンや入力操作の基本		PCの起動、画面の説明、キーボードの打ち方、漢字変換など	
4～5	フォルダーやファイル操作の基本			
6～9	Word知識		入力操作、書式設定、表の作成、グラフィック要素	
10～13	Word知識 文書例作成		各種文書作成	
14～15	総合演習		総合演習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
留学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint入門		課題・レポート	50.0%	
		実習・実技評価	50.0%	

作成者：高橋勇雄

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コンピュータリテラシーⅡ		介護福祉学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）		必須		高橋 勇雄
授 業 の 概 要				
コンピュータリテラシーについての基本を理解する				
授業終了時の到達目標				
Office2019を使って表計算シートを作成できる				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
テキストを熟読しておくこと				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	Excelの基本		Excel起動と終了、シートの作成と削除、ブックの保存、読み込み、テンプレート、シートの印刷	
4～5	セル操作の基本		セルとシートの基本、データの入力と修正、データのコピーと移動、オートフィル、セルの表示形式	
6～9	表の作成と編集		配置、フォント、罫線、塗りつぶし、表のスタイル、表の検索と置換、並べ替え	
10～13	数式と参照		合計の計算、関数を使った合計や平均の計算、相対参照、絶対参照、複合参照、最大値、最小値、if関数	
14～15	グラフ機能と素材の挿入		円グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの色やレイアウト、スタイルの変更、棒グラフの作成、画像・図形・オンライン画像の挿入	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint入門		課題・レポート	50.0%	
		実習・実技評価	50.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
介護福祉総論	介護福祉学科／2年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		福原 里奈
授 業 の 概 要			
・ 人間の尊厳自立の要点 ・ 人間関係とコミュニケーションの要点 ・ 介護の基本の要点		・ 生活支援技術の介護の根拠について ・ こころとからだのしくみの領域での要点 ・ 医療的ケアの重要なポイント	
授業終了時の到達目標			
・ 各科目ごとの重要な要点を理解し、介護福祉士としての必要な基本的な知識と根拠を学ぶ。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修			
テキスト、配布プリントを熟読しておくこと			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 2	人間と社会	1. 人間の尊厳と自立（自立と自律） 2. 人間関係とコミュニケーション（人間関係の形成）	
3～ 8	介護	3. 介護の基本（利用者主体の考え方） 4. 介護の基本（ICFの構成と相互作用） 5. コミュニケーション技術 （チームのコミュニケーション） 6. 生活支援技術（家事について） 7. 生活支援技術（終末期の介護に必要な知識） 8. 生活支援技術（福祉用具の活用の仕方）	
9～ 15	こころとからだのしくみ	9. 発達と老化の理解（発達段階と発達課題） 10. 発達と老化の理解（老年期の発達課題） 11. 認知症の理解（認知症ケアの歴史と理念） 12. 認知症の理解（新オレンジプランの概要） 13. こころとからだのしくみ（人体の部位の名称） 14. こころとからだのしくみ（神経系） 15. 医療的ケア（リスクマネジメントの重要性）	
教科書・教材		評価基準	評価率
介護福祉士国試ナビ		確認テスト 課題・レポート	80.0% 20.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本Ⅲ		介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		坂井 利成
授 業 の 概 要				
・リスクマネジメントなど、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う				
・介護従事者の安全と健康管理について理解を深める				
授業終了時の到達目標				
・利用者の安全および、介護従事者の安全に配慮できる方法を取得できる				
・介護従事者の安全と、自身の心身の健康管理の方法を取得できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護老人保健施設等で9年間の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する				
グループワークの積極的な参加と事前準備				
回	テ ー マ		内 容	
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント①		介護における安全の確保	
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント②		リスクマネジメントとは何か	
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント③		ルールや約束事を守ることの重要性	
4	介護における安全の確保とリスクマネジメント④		福祉サービスに求められる安全・安心	
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑤		事故防止のための対策	
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑥		感染に関する知識	
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント⑦		安全な薬物療法を支える視点・連携	
8	介護従事者の安全①		こころの健康管理	
9	介護従事者の安全②		こころの病気	
10	介護従事者の安全③		職場で取り組むこころの健康管理 リラクゼーション	
11	介護従事者の安全④		身体の健康管理①	
12	介護従事者の安全⑤		身体の健康管理②	
13	介護従事者の安全⑥		労働環境の整備①	
14	介護従事者の安全⑦		労働環境の整備②	
15	まとめ・期末試験		1から14回までのまとめ 期末試験	
教科書・教材			評価基準	評価率
最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 中央法規			期末試験	90.0%
			課題・レポート	10.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
生活支援技術（レクリエーションⅡ）		介護福祉学科／2年	2026／前期	演習	
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員	
1単位（30時間）		必須		坂井 利成	
授 業 の 概 要					
介護現場に必要な、レクリエーションについて演習を通して理解し、レクリエーションの意義について学ぶ。					
授業終了時の到達目標					
レクリエーションを対象者をもとに適切なものを設定することができる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		介護老人保健施設等で9年の実務経験			
時間外に必要な学修					
レクリエーションに必要な物品の準備をしておくこと					
回	テ ー マ		内 容		
1	オリエンテーション レクリエーションとは		授業内容説明 レクリエーションとは		
2	レクリエーションの実施 季節の歌		レクリエーション演習 季節の歌		
3～ 6	レクリエーションの実施 目的の立て方		レクリエーション演習 利用者に合わせた目的		
7～ 8	レクリエーションの実施 レクリエーション計画の作成		レクリエーション計画書の作成		
9～ 12	模擬レクリエーションの実施		模擬レクリエーションを実施 振り返り		
13～ 14	実習でのレクリエーションの振り返り		実習でのレクリエーションの実際から振り返りを行う		
15	まとめ				
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
配布資料			実習・実技評価	70.0%	
			課題・レポート	30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術（福祉用具）		介護福祉学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（40時間）		必須		三木 春美
授 業 の 概 要				
自立に向けた居住環境の整備について学ぶ 福祉用具を活用することで、介護者と対象者の双方にとってのメリットがあることを学ぶ				
授業終了時の到達目標				
ニーズに応じて居住環境を整備することができる。 適切な福祉用具を活用することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修				
配布プリントの確認				
回	テ ー マ		内 容	
1～ 2	住まいの役割と機能		住まいの役割と機能 家族と生活空間 住まいと地域	
3～ 4	生活空間		人と空間 加齢と生活空間	
5～ 6	快適な室内環境		生活環境と室内環境 室内機構の調整 明るさの調整 音環境の調整 住まいの維持・管理	
7～ 8	安全に暮らすための生活環境		日常安全 災害に対する備え	
9～ 10	高齢者・障害者の住まい		高齢者・障害者の住まい	
11～ 12	多職種との連携		住環境の整備における多職種連携の必要性 住環境の整備における多職種連携の実際	
13～ 16	生活支援における福祉用具の重要性		福祉用具とは 公的制度における福祉用具の給付変遷 福祉用具を使用する意義	
17～ 19	福祉用具の種類、適切な福祉用具を選ぶための視点		福祉用具の分類 公的制度における福祉用具サービス 解決手段は福祉用具だけではない 福祉用具に関するリスクとリスクマネジメント 福祉用具の提供プロセス 福祉用具を選ぶためのアセスメントの視点 福祉用具の適合・モニタリングの視点	
20	まとめ			
教科書・教材			評価基準	評価率
最新 介護福祉士養成講座6.7.8 生活支援技術Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ 適時資料配布			期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%
				その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術（調理実習）	介護福祉学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
0単位（20時間）	必須		大石 英雄
授 業 の 概 要			
栄養・調理に関する実習を行い、具体的な家庭生活支援能力を養う。			
授業終了時の到達目標			
調理実習を行い、家庭での調理の技術を習得する。			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
自宅で自炊してみる			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 2	調理実習 1	だしの取り方	
3～ 4	調理実習 2	調理実習	
5～ 6	調理実習 3	調理実習	
7～ 8	調理実習 4	調理実習	
9～ 10	調理実習 5	調理実習	
教科書・教材		評価基準	評価率
		実習・実技評価	100.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程Ⅲ		介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
4単位（60時間）		必須		三木 春美
授 業 の 概 要				
介護過程の展開 介護過程の実践的展開 アセスメントツール 障害者の介護過程				
授業終了時の到達目標				
ニーズの優先順位を考えることができ、そのニーズに応じた介護サービスや制度を選択でき、介護過程の展開あできる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設１０年の実務経験、介護支援専門員６年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
教科書を読む				
回	テ ー マ		内 容	
1	介護過程の実践的展開		介護過程の実践的展開の意義、目的、構成	
2	介護過程の展開		ICFを十分に理解する	
3	介護過程の展開		事例から介護過程の展開を学ぶ（グループワーク）	
4	介護過程の展開		3コマ目のグループワークの発表	
5	「介護過程」の展開の実際		事例１、グループホームにおける認知症高齢者の事例 フェイスシートから、利用者をイメージできる	
6	「介護過程」の展開の実際		事例１アセスメントシートに情報をまとめる	
7	「介護過程」の展開の実際		事例１をICFにて整理する アセスメント表を作成	
8	「介護過程」の展開の実際		介護計画書を作成する	
9	「介護過程」の展開の実際		実施評価表から評価を行う	
10	「介護過程」の展開の実際		事例２、脳性麻痺のある男性の事例 フェイスシートから、利用者をイメージできる	
11	「介護過程」の展開の実際		事例２アセスメントシートに情報をまとめる	
12	「介護過程」の展開の実際		事例２をICFにて整理する アセスメント表を作成	
13	「介護過程」の展開の実際		介護計画書を作成する	
14	「介護過程」の展開の実際		実施評価表から評価を行う	
15	「介護過程」の展開の実際		事例３、在宅における脳血管疾患のある女性の事例 フェイスシートから、利用者をイメージできる	

回	テ ー マ	内 容		
16	「介護過程」の展開の実際	事例 3 アセスメントシートに情報をまとめる		
17	「介護過程」の展開の実際	事例 3 を ICF にて整理する アセスメント表を作成		
18	「介護過程」の展開の実際	介護計画書を作成する		
19	「介護過程」の展開の実際	実施評価表から評価を行う		
20	「介護過程」の展開の実際	事例 4、介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例 フェイスシートから、利用者をイメージできる		
21	「介護過程」の展開の実際	事例 4 アセスメントシートに情報をまとめる		
22	「介護過程」の展開の実際	事例 4 を ICF にて整理する アセスメント表を作成		
23	「介護過程」の展開の実際	介護計画書を作成する		
24	「介護過程」の展開の実際	実施評価表から評価を行う		
25	実習終えての振り返り	実習で学んだことを整理（個人ワーク）		
26	実習終えての振り返り	実習で学んだことを整理（グループワーク） 発表		
27	実習終えての振り返り	実習での利用者情報をもとにアセスメントシート作成		
28	実習終えての振り返り	ICF を活用し、アセスメントを整理する		
29	実習終えての振り返り	介護計画を立案		
30	単元のまとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 中央法規		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程Ⅳ		介護福祉学科／2年	2026／後期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		三木 春美
授 業 の 概 要				
・チームアプローチ ・介護過程の展開の理解 ・介護過程とチームアプローチ ・実習での経験を踏まえて、専門職として実践的な介護過程の展開とは何かを理解し、必要なスキルを身につけ、他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚し、自分自身の介護観を発展させる。				
授業終了時の到達目標				
・介護過程Ⅰ・Ⅱで習得した内容を理解し、その計画の評価が正当なものかどうか判断できる。 ・個別の事例において、利用者の状態や状況を理解し介護過程を展開することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護施設等で10年の実務経験、介護支援専門員6年の実務経験あり		
時間外に必要な学修				
教科書を読み、復習、予習				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	介護過程とケアマネジメントの関係性		ケアマネジメントの意義・目的 ケアマネジメントの理念	
3	ケアマネジメントの流れ		ケアマネジメントの流れ ケアマネジメントと介護過程	
4～5	チームとしての介護過程を展開する意義		チームとして介護過程の展開 カンファレンスの意義	
6	チームアプローチにおける介護福祉士の役割		チームアプローチの必要性 チームでの介護福祉士の役割	
7	チームアプローチの実際		事例に基づき介護福祉士としての役割の理解を深める	
8	利用者の生活と介護過程		介護福祉士の仕事の魅力	
9～14	利用者の様々な生活と介護過程の展開		事例を活用し、様々な視点から介護過程を考える	
15	まとめ 試験		まとめ、試験	
教科書・教材			評価基準	評価率
最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規 出版 適宜資料 プリント			課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%
				【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて今回の学習内容の復習と予習を行う

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習Ⅲ	介護福祉学科／2年	2026／前期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）	必須		阿部 善彦
授 業 の 概 要			
介護実習Ⅱ-②において、介護過程を展開できる能力を養う。			
実習を振り返り、事例検討を行う中で、科学的な介護の実践について理解する。			
授業終了時の到達目標			
介護実習Ⅱ-②において、適切に介護過程を展開できる。			
エビデンスの構築につながる介護実践の科学的探究の意義と方法を理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。		
時間外に必要な学修			
事前学習 実習記録の作成			
回	テ ー マ	内 容	
1	介護実習Ⅱ-②の意義と目的	介護実習Ⅱ-②の意義・目的	
2	介護過程について	介護過程について 様式・書き方	
3	多職種連携とチームケア	施設における多職種連携の在り方 チームケア	
4	介護過程の展開①	情報収集	
5	介護過程の展開②	アセスメント	
6～ 7	介護過程の展開③	介護計画の立案	
8～ 10	事例検討	担当利用者の事例検討	
11～ 12	報告会準備	実習報告会の準備	
13～ 15	実習報告会	介護実習Ⅱ-②の実習報告会	
教科書・教材		評価基準	評価率
最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規 配布資料		課題・レポート 実習・実技評価	60.0% 40.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習Ⅳ	介護福祉学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（30時間）	必須		三木 春美
授 業 の 概 要			
介護実習Ⅱ-③において、介護過程を展開できる能力を養う。 実習を振り返り、事例検討を行う中で、科学的な介護の実践について理解する。			
授業終了時の到達目標			
介護実習Ⅱ-③において、適切に介護過程を展開できる。 エビデンスの構築につながる介護実践の科学的探究の意義と方法を理解する。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	介護福祉士として介護施設１０年の実務あり		
時間外に必要な学修			
不明な点は各自で調べること。 書類を期日までに作成すること。			
回	テ ー マ	内 容	
1	介護実習Ⅱ-③の意義と目的	介護実習Ⅱ-③の意義・目的	
2	介護過程について	介護過程について 様式・書き方	
3	多職種連携とチームケア	施設における多職種連携の在り方 チームケア	
4	介護福祉士の倫理観	介護福祉士の倫理 倫理綱領	
5	介護過程の展開①	情報収集	
6	介護過程の展開②	アセスメント	
7	介護過程の展開③	介護計画の立案	
8	介護過程の展開④	モニタリングと評価	
9～ 10	介護実習Ⅱ-③の振り返り	まとめと振り返り	
11～ 12	事例検討	担当利用者の事例検討	
13	報告会準備	実習報告会の準備	
14～ 15	実習報告会	介護実習Ⅱ-③の実習報告会	
教科書・教材		評価基準	評価率
資料配布		実習・実技評価 課題・レポート	40.0% 60.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅰ-②	介護福祉学科／2年	2026／前期	外部実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（48時間）	必須		阿部 善彦
授 業 の 概 要			
デイサービス、デイケア、グループホーム、小規模多機能型等での介護実習Ⅰ 介護にかかわる施設の概要の理解、および在宅サービスの意義を体験的に理解し、基本的なコミュニケーション技術を習得し、介護職としての基本的態度・技術を養う。			
授業終了時の到達目標			
・施設の概要を理解し、利用者理解を深める。 ・積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・介護実習Ⅱと介護実習Ⅰにおける施設利用者との関わりの違いを認識する			
実務経験有無	実務経験内容		
有	①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～ 24	介護実習	介護施設等の概要を理解する。 介護職者としての心得を理解する。 地域における生活支援の実践について学ぶ。 多職種連携を理解し、介護福祉士の役割を学ぶ。	
教科書・教材		評価基準	評価率
資料および実習書類の配布		課題・レポート	30.0%
		実習・実技評価	70.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅱ-②	介護福祉学科／2年	2026／前期	外部実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（128時間）	必須		阿部 善彦
授 業 の 概 要			
・ 特別養護老人ホーム等での介護実習Ⅱ-②			
授業終了時の到達目標			
・ アセスメントシートを作成することができる。			
・ 情報分析の結果を踏まえて個別介護計画を作成することができる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	①特別養護老人ホームで介護職員経験あり。 ②訪問介護でサービス提供責任者、管理者経験あり。 ③デイサービスセンターで生活相談員、管理者経験あり。		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～64	介護実習	アセスメントシートを作成する 情報分析の結果を踏まえて個別介護計画を作成 施設での地域の役割の理解 チームアプローチの理解	
教科書・教材		評価基準	評価率
資料および実習書類の配布		出席率	20.0%
		課題・レポート	10.0%
		実習・実技評価	70.0%
		その他	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅱ-③	介護福祉学科／2年	2026／後期	外部実習
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
3単位（160時間）	必須		三木 春美
授 業 の 概 要			
特別養護老人ホーム等での介護実習Ⅱ-③ 個別計画を作成し、実施することで個別介護計画の意義を理解し、モニタリングと評価を通じて介護計画を作成する能力の向上を図る。			
授業終了時の到達目標			
・立案した介護計画を実施することができる。 ・モニタリング作業を通じて介護過程の展開の意義を理解する。 ・専門職としての介護技術を習得し、その場に応じた応用技術を身につける。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1～80	介護実習	・特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設等で実習を行う。 ・介護過程の実践的展開を実践的に学び、本人主体の生活と自立支援について理解する。 ・カンファレンス等に参加し、他職種協働の実践について体験的に理解する。 ・地域における生活支援の実践が、施設においてどのような形でなされているのかを理解する。 ・一連の介護過程の展開を実施する。 ・レクリエーション計画を立案・実施し、評価を行う。 ・家族支援のあり方について理解を深める。 ・自己の介護観についてまとめる。	
教科書・教材		評価基準	評価率
		課題・レポート	30.0%
		実習・実技評価	70.0%
		その他	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
障害の理解Ⅱ	介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		福原 里奈
授 業 の 概 要			
1. 障害の基礎的理解 2. 障害別の特性に応じた支援 3. 連携と協働 4. 家族への支援			
授業終了時の到達目標			
1. 医学的な知識に基づいて障害を理解する 2. 障害のある人の心理的側面や生活面も含めた支援を考えられる 3. 地域サポート体制を理解し、障害のある人と家族の支援に活用できる視点を持つ			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修			
回	テ ー マ	内 容	
1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ	知的障害	
2		知的障害の特性に応じた支援	
3		精神障害	
4		精神障害の特性に応じた支援	
5		高次脳機能障害	
6		高次脳機能障害の特性に応じた支援	
7		発達障害	
8		発達障害の特性に応じた支援	
9		難病	
10		難病の特性に応じた支援	
11	連携と協働	地域のサポート体制	
12		チームアプローチ	
13	家族への支援	家族への支援とは	
14		家族介護力の評価と介護負担の軽減	
15	まとめ	まとめ・期末試験	
教科書・教材		評価基準	評価率
最新 介護福祉士養成講座 1 4 障害の理解 中央法規		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%
			その他

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
こころとからだのしくみⅢ	介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）	必須		福原 里奈
授 業 の 概 要			
・基礎知識をもとに利用者の入浴・清潔保持、排泄、睡眠等の生活を支える介護実践を学ぶ ・死にゆく人の機能的・身体的・心理的变化を学び、家族を含めた総合的な支援について学ぶ			
授業終了時の到達目標			
・入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠の生理的・心理的意味を理解し、介護実践に結びつけた援助の方法を考えることができる ・終末期のこころとからだの変化を理解し、家族を含めた支援を考えることができる。			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修			
・次回の授業内容を踏まえて、テキストを用いて予習する ・国家試験問題を自主的に解く ・既習単元の復習			
回	テ ー マ	内 容	
1	6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①	入浴・清潔保持のしくみ	
2	6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②	心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	
3	6章 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③	変化の気づきと対応	
4	7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ①	排泄のしくみ	
5	7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ②	心身機能の低下が排泄に及ぼす影響	
6	7章 排泄に関連したこころとからだのしくみ③	変化の気づきと対応	
7	8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①	休息・睡眠のしくみ	
8	8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②	心身機能の低下が休息・睡眠に及ぼす影響	
9	8章 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③	変化の気づきと対応	
10	9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①	「死」の捉え方	
11	9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②	「死」に対するこころの理解	
12	9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	
13	9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④	終末期における医療職との連携	
14	9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①	家族支援	
15	まとめ・後期末試験	1～15回までの復習・ポイントの整理 後期末試験	
教科書・教材		評価基準	評価率
・最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 中央法規 ・介護福祉士国家試験合格ドリル 中央法規		期末試験 課題・レポート	90.0% 10.0%
			その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケア-①		介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（30時間）		必須		福原 里奈
授 業 の 概 要				
・ 人間と社会 ・ 安全な療養生活 ・ 保健医療制度とチーム医療 ・ 清潔保持と感染予防 ・ 健康状態の把握 ・ 喀痰吸引の基礎的知識				
授業終了時の到達目標				
医療的ケアを行う際に必要な基礎的知識が理解できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師として8年の実務経験あり。		
時間外に必要な学修				
テキストを熟読し、予習と復習				
回	テ ー マ		内 容	
1	医療的ケア実施の基礎（1） 人間と社会①		・ 医療的ケアとは ・ 医行為について	
2	医療的ケア実施の基礎（2） 保健医療制度とチーム医療①		・ 喀痰吸引制度 ・ 医療的ケアと喀痰吸引の背景	
3	医療的ケアと喀痰吸引の背景 保健医療制度とチーム医療②		・ 介護福祉士養成課程における医療的ケアとは ・ その他の制度	
4	医療的ケア実施の基礎（3） 清潔保持と感染予防①		・ 感染予防	
5	医療的ケア実施の基礎（4） 清潔保持と感染予防②		・ 療養環境の清潔、消毒法 ・ 消毒と滅菌について	
6	医療的ケア実施の基礎（5） 健康状態の把握①		・ 健康を知る ・ バイタルサイン、急変状態	
7	医療的ケア実施の基礎（6） 健康状態の把握②		・ バイタルサインの測定 ・ 手洗い、ガウンテクニック	
8	医療的ケア実施の基礎（7） 安全な療養生活①		・ 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 ・ リスクマネジメントとは	
9	医療的ケア実施の基礎（8） 安全な療養生活②		・ 救急蘇生	
10	医療的ケア実施の基礎（9） 清潔保持と感染予防③		・ 正しい手洗いの演習 ・ 手指の汚れの見える化	
11	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） （1） 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論①		・ 呼吸のしくみのはたらき ・ いつもとちがう呼吸状態とは	
12	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） （2） 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論②		・ 喀痰吸引とは ・ 人工呼吸と吸引	
13	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） （3） 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論③		・ 人工呼吸療法（非侵襲的） ・ 人工呼吸療法（侵襲的）の場合の気管カニューレ	

回	テ ー マ	内 容		
14	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） （4） 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論④	・人工呼吸器装着者の生活上の留意点 ・人工呼吸装着者の呼吸管理に関する連携		
15	喀痰吸引（基礎知識）のまとめ 期末テスト	1 ～ 1 4 回まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケア-②	介護福祉学科／2年	2026／後期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
2単位（38時間）	必須		福原 里奈
授 業 の 概 要			
喀痰吸引の実施手順を理解する 経管栄養の基礎知識を学び実施手順を理解する 安全な療養生活を守るために、救急蘇生について実践レベルでの理解ができる			
授業終了時の到達目標			
演習や実技試験が受けられるレベルになるよう、喀痰吸引の基礎知識及び基本的な実施方法・留意点について理解ができる 演習や実技試験が受けられるレベルになるよう、経管栄養の基礎知識及び、基本的な実施方法・留意点について理解ができる 演習や実技試験が受けられるレベルになるよう、救急蘇生について実践レベルでの理解ができる			
実務経験有無	実務経験内容		
有	看護師として8年の実務経験		
時間外に必要な学修			
テキストを熟読し予習と復習をしておくこと			
回	テ ー マ	内 容	
1	喀痰吸引（基礎知識・実施手順） 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順①	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説① 喀痰吸引で用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持 吸引の技術と留意点	
2	喀痰吸引（基礎知識・実施手順） 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順②	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説② 吸引実施手順と留意点 口腔内・鼻腔内	
3	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順③	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順③ 吸引実施手順と留意点 気管内カニューレ内の吸引	
4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順④	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順④ 喀痰吸引にともなうケアについて 記録および報告	
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施 演習①	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施 演習① 口腔内の喀痰吸引の手技と手順（step5）	
6	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施 演習②	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施 演習② 鼻腔内の喀痰吸引の手技と手順（step5）	
7	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施 演習③	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施 演習③ 気管カニューレ内の喀痰吸引の手技と手順（step5）	
8	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の手順解説⑤	高齢者および障害児・者の喀痰吸引の実施手順解説⑤ 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認について 喀痰吸引でのヒヤリハットの報告書の書き方	
9	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 高齢者および障害児・者の経管栄養概論①	高齢者および障害児・者の経管栄養概論① ・消化器系の役割・機能、消化・吸収のしくみ ・よくある消化器症状について経管栄養との関連性	
10	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 高齢者および障害児・者の経管栄養概論②	高齢者および障害児・者の経管栄養概論② ・経管栄養とは ・経管栄養のしくみと種類、注入する内容、実施上の留意	
11	経管栄養（基礎的知識・実施手順） ③ 高齢者および障害児・者の経管栄養概論③	高齢者および障害児・者の経管栄養概論③ ・子どもの経管栄養について ・経管栄養に関する感染予防の方法	

回	テ ー マ	内 容		
12	経管栄養（基礎的知識・実施手順） ④ 高齢者および障害児・者の経管栄養 実施手順解説④	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説④ ・経管栄養に使用する物品や経管栄養の種類 ・経管栄養の技術と留意点		
13	経管栄養（基礎的知識・実施手順） ④ 高齢者および障害児・者の経管栄養 実施手順解説⑤	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説？ 経管栄養の手順と留意点		
14	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 演習①	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順演習① ・経鼻経管栄養の手順と留意点の確認 ・経管栄養物品の操作 ・物品の消毒洗浄と乾燥		
15	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 経管栄養（基礎的知識・実施手順） 演習②	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順 演習② ・胃ろうによる経管栄養の手順と留意点の確認 ・胃ろうによる経管栄養の手順通り実施		
16	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 高齢者および障害児・者の経管栄養 実施手順解説⑤	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説⑤ ・経管栄養に必要なケア ・経管栄養実施における報告及び記録 ・経管栄養時の事故発生の対応		
17	医療的ケア実施の基礎（10） 安全な療養生活③ 救急蘇生演習	救急蘇生の実際 ・胸骨圧迫のトレーニング、AEDの操作を実施 ・心肺蘇生の評価表に基づき手順通り実施		
18	医療的ケアのまとめ既習項目	既習内容のふりかえり ・医療的ケア全般の既習項目を整理		
19	期末試験 1～3章までの期末試験（60分間 30問）テストのふりかえり	期末試験 第1～3章まで（60分間の試験時間と問題数 30問） 期末試験振り返りと解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規 改定 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養 研修テキスト 中央法規		確認テスト 課題・レポート	90.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケア（演習）		介護福祉学科／2年	2026／後期	演習
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
0単位（12時間）		必須		福原 里奈
授 業 の 概 要				
喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するための技術を身につける。 ・ 喀痰吸引演習 ・ 経管栄養演習 ・ 救急蘇生法演習				
授業終了時の到達目標				
・ 喀痰吸引を安全・適切に実施することができる。 ・ 経管栄養を安全・適切に実施することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師経験8年		
時間外に必要な学修				
評価票及び手順書を熟読するおよび、動画を視聴しながらシュミレーションする				
回	テ ー マ		内 容	
1	清潔・不潔、感染予防		清潔・不潔、感染予防	
2	喀痰吸引演習 1) 喀痰吸引の留意点・記録		喀痰吸引の留意点・記録	
3	喀痰吸引演習 2) 喀痰吸引（口腔、鼻腔、気管カニューレ）		喀痰吸引（口腔、鼻腔、気管カニューレ）5回以上	
4	経管栄養演習 1) 経管栄養の留意点・記録		経管栄養の留意点・記録	
5	経管栄養演習 2) 経管栄養（胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養）		経管栄養（胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養）5回以上	
6	救急蘇生法演習 救急蘇生法、まとめ		救急蘇生演習1回以上 まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 改訂	介護福祉士養成講座15 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養 研修テキスト	医療的ケア 中央法規	実習・実技評価 100.0%	

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ	介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数	必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）	選択		福原 里奈
授 業 の 概 要			
就職活動を控え、これから、社会人になるにあたって、必要なスキルを身につける 3KAN教育の後半として、就職活動を通して社会人に必要なスキルを身につける			
授業終了時の到達目標			
1. 3KAN教育（1. 自己効力感 2. 成長実感 3. 学び続ける習慣）により企業が求める人材を育成する 2. 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の育成 3. 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる			
実務経験有無	実務経験内容		
時間外に必要な学修			
配布プリントの確認			
回	テ ー マ	内 容	
1	企業訪問/就職試験について/ 企業が欲しい人材/自己分析	企業が求める人材の理解と自分を理解する ほううれんそう PDCA	
2	グループディスカッション・ワーク	ディスカッション（インバケット思考）	
3	就職や社会におけるSNSの活用 ・ SNSを就職活動に役立てる方法と 注意点について理解する ・ SNSが扱う個人情報と社会でどう 関わっているのかを、法律的な観点 から理解する	(前半) 1. SNSとはどのようなものか 2. SNSを利用した就職活動の方法例 3. SNSの利用を誤った場合の失敗例 (後半) ・ 著作権とは？ ・ 肖像権とは？ ・ SNSへ画像や動画を投稿する際の注意点	
4	就職活動の確認	各学科で、就職活動について確認する。	
5	新聞を通して、情報の入手の仕方 や、新聞の読み方を学ぶ 外部講師（徳島新聞社）	①仕事に必要な基礎能力とは ②基礎能力向上に新聞がなぜ役立つか ③新聞と他メディアの違い ④慣れない新聞の読み方 ⑤1日10分で基礎能力のトレーニングになる新聞の使い方	
6	就職活動の確認	各学科で、就職活動について確認する。	
7	社会に出た際に必要となる知識を学 び理解する（働くことの基礎知識～ 労働・給与・税金～） 外部講師（森先生）	給与計算の基礎知識 ・ 給与に関する法律 ・ 給与支払いの5原則 ・ 給与明細の見方 ・ 残業時間の計算 ・ 法定労働時間と変形労働時間制 ・ 残業時間を計算する ・ 時間外労働の割増率 ・ 税金について	
8	就職するにあたって	社会人になるということ 学生と社会人の違い	
教科書・教材		評価基準	評価率
		出席率	100.0%
			その他

作成者: 川村 久恵

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日本語Ⅲ		介護福祉学科／2年	2026／前期	講義
単位数または時間数		必修・選択必修・自由選択		担当教員
1単位（16時間）		選択		川村 久恵
授 業 の 概 要				
・ 介護福祉士養成科目を理解する為に4技能を伸ばす ・ 国家試験とJLPTに向けて、テスト対策 ・ N1、N3レベルの文法、漢字、語彙、聴解の強化				
授業終了時の到達目標				
・ 国家試験に向けて、日本語の各分野を修得する ・ JLPTに合格する				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
配布プリントの確認と問題プリントの宿題をしておくこと				
回	テ ー マ		内 容	
1	春休みについて		春休みについて文章を書き、発表できる	
2	模擬試験		模擬試験	
3～5	JLPT対策		読解と聴解	
6～7	JLPT対策		文法、漢字語彙	
8	試験、まとめ		試験、まとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
・ N1日本語能力試験直前対策ドリル&模試 文字・語彙・文法・N1文法総まとめ ・ N3日本語能力試験直前対策 文字・語彙・文法JLPT・N3文法・語彙・漢字 ・ 会話で学ぼう介護の日本語・介護の日本語基本のことば ・ 日本語の助詞			確認テスト 期末試験 課題・レポート	10.0% 60.0% 30.0%
				その他